

集中力を育て、意欲的に活動の持続する子の育成

— Y・I児の生活単元との取り組みから —

杉 谷 一 司

1 対象児のプロフィール

生徒名 Y・I(女) 昭和44年8月21日生(中学部3年) IQ46(WISC)

鳥取市立H中学校特殊学級より1年次に転入

(1) 一般特性

とても明るい性格で、大げさに喜びを表現し、はしゃぎすぎることが多い。また、外からの刺激に次々と反応し、落付いた取り組みがみられず、行動を急にやめてしまうこともしばしばある。学習には意欲的に取り組もうとするが、教師や友だちの言動にはしゃぎすぎたりして、物事に集中して取り組めない。また、言語が不明瞭で途中で話しがあいまいになってしまう。

(2) 問題点と研究に取り上げた理由

Y・I児はいろいろな事に興味・関心をもち、よろこびも大げさなほど素直に表現する。しかしその反面、集中力に欠け、注意散漫で根気がない。そのため、興味をもって学習に取り組んでいても、次の事へ、他の物へとすぐに興味が移り、学習態度に落付きがなく、その学習によって獲得が期待される多くの知識・技能・習慣・喜び・興味などの習得の妨げになっている。また、興味の赴くままに行動することが多くなる。人との会話が自分勝手になったり、勝手な行動をしたりする。このことは将来の社会的自立、職業自立を想定すると大きな障害になることが考えられる。従って自分勝手な行動をなくしていくことがI・Y児にとって生きて働く力が身につくことにつながることを考えた。

2 個人目標の設定と研究方法

(1) 個人目標の設定

Y・I児の問題点の改善、除去をめざして『集中力を育て、意欲的に活動する子の育成』を個人目標にあげ、主として生活単元学習の中で取り組んだ。その中で、次の2点について特に配慮した。

- ① 一つ一つの行動の間のけじめをきちんとする。
- ② 正しい姿勢でゆっくり話し、途中であいまいにしない。

(2) 研究の方法

本学級の生活単元学習は行事単元が多い。行事単元では、生徒同志の意見交換、反省事項の話し合いなどを多く取り入れている。精薄児の特性として抽象思考が困難ということが言われるが、行事単元を通して、指示を聞いてから行動するとか、話し合いに従って行動する手だてを工夫し、研究と取り組んだ。

3 授業の構成と指導の手だて

(1) 授業の構成

単元	主な学習内容	主なY・I児の学習活動	指導上の留意事項
修学旅行	① 集団行動のきまり ② 交通機関・宿泊施設の利用 ・列車、バス、タクシー ・旅館、工場見学、公共施設 ③ 金銭の取り扱い	・模擬場面を教室に設定して指示を聞いて行動する。 ・駅・百貨店・社会見学など実際場面での行動練習 ・宿泊訓練（校内施設利用）	・常に修学旅行の楽しさを大切に意識づける。 ・学習の説明→行動指示→素速い行動 ・集団の中での活動を重視する。
児童生徒集会	① 集会での学級発表の計画 ② 劇「はだかの王様」の練習 ・せりふの練習 } 総合練習 ・動きの練習 } ・道具づくり・場面づくり ③ 学級発表	・自分の考えを言う。 ・劇のすじにそって、友だちの中で、指示に従って動く。 ・場面づくりを指示を聞いて素速くする。	・劇や音楽は好きだから調子に乗りすぎ、勝手な行動にならないようにする。 ・ビデオで前時の話し合いをして、本時目標を自分でつくるようにした。

(2) 指導の手だて

① 修学旅行

Y・I児は、授業計画を話すと途端に調子にのり、自分勝手に授業に参加した気分になる。後の学習行動が集団の中でうまくいかせない。従って、教師の指示をしっかりと聞かせる手だてとして、次のような方法をくり返した。

- ・まずY・I児の前に立って、視線を合わせ、1対1で話しかけるよう、ゆっくりと指示をした。
- ・話し合いでは、必ず手をあげて、指名されてから言うよう徹底した。



- ・教師の指示通りできたら、必ず賞賛を与えた。

② 劇の練習

修学旅行の場合と同じように、教師と1対1で話し合える場を設定し、指導したが、ここでは、教師と視線を合わせることをビデオに置き替えて、視線を合わせるというようにして、集中力の育成に取り組んでみた。

4 指導実践例

(1) 事例Ⅰ 指示を聞く場面

教師の話を書く時、Y・I児は背をまげて机の上にひじを立てて、手をほほにあてキョロキョロしている事が多い。始めは「こっち見て、手はひざ」と言うと正した。しかし1分ともたない。そこで聞く態度を意識させるため、次のようにして指導をくり返した。

- ① 「こっちを見て」「手はひざ」などの言葉かけをする。
- ② 教師が自分の腰を両手でたたき、起をつけをしてみせる。
- ③ 姿勢が悪いと話をやめ、教師を注目するのをまつ。

以上のような指導をくり返す中でY・I児に次のような変化が少しずつみえだしてきた。

- ① 教師が途中で話をやめると姿勢を正すようになった。
- ② 教師が前に立って話をしようとする、最初は大体姿勢を正すようになった。
- ③ 中学部全体の合同学習の時でも教師の方に注目するようになった。

しかし、姿勢を正している時間はせいぜい1～2分で、今後少しでも注目する時間を長くしていかなばと思っている。

(2) 事例Ⅱ 「はだかの王様」の立ちげいこに入る場面

「はだかの王様」の立ちげいこを教室でする時は、机やイスを片付けて、場所づくりからはじめる。最初にイスを横にならべて座らせるようにした。

一日目、教師の方に注目させ、机、イスを置く場所を指で示しながら指示し、行動に移させた。しかし、全員立ちあがったもののウロウロしている。もう一度イスに座らせ、今後は教師が机、イスそれぞれを置く場所に立ちながら指示し、K児に聞いて、一斉に行動に移させた。K児はスムーズに行動したが、Y・I児らはウロウロした後、人のマネをして指示した場所に机、イスを運んだ。

二日目、場所を指で示しながら、T児、A児に聞く。そして一斉に行動に移るよう指示する。Y・I児は少し他の人の行動を見てから行動した。

三日目、場所を指で示し、机、イスを置く場所を、Y・I児に聞く、正しく答える。一斉に行動に移るよう指示すると、すぐに立ちあがり、指示した場所に置けた。

四日以降、場所を指で示し、指示しただけで行動に移させた。

Y・I児もみんなといっしょに指示した場所に机、イスを置くことができた。



(3) 事例Ⅲ 3カ月後のクリスマス発表会の練習のようす

クリスマス会の出し物に「ももたろう」の劇をすることになり、立ちげいこを行なった。「はだ

かの王様」の時と同じように机、イスを移動することにした。

一日目、「はだかの王様」の時と同じ場所を指で示しながら指示した。その後、場所をY・I児に聞くが答えられない。K児に聞くと正しく答える。もう一度Y・I児に聞くと正しく答えた。一斉に移動させると全員指示した場所に運べた。

二日目、都合により一日目と違う場所を指で示しながら指示し、移動させた。K児は正しく運んだ。もう一度、教師が指示した場所に立ちながら指示した。Y・I児は人のようすを見てから指示した場所に机、イスを運んだ。

三日以降、場所を指で示し指示し、行動に移させる。Y・I児も指示した場所に置けた。

(4) 事例Ⅳ 劇「はだかの王様」の話し合いを通して

練習の始めに前時のビデオを見て評価をしあい、個人目標を作って練習にのぞむようにした。

集中してビデオを見、話し合いに参加できるように次のことに留意して進めた。

- ① ビデオを見る時は静かにする。さわぐとビデオを切る。
- ② 途中で場面をストップさせ「上手」「声が小さい」などと評価し、生徒の意見を聞く。
- ③ ビデオを見た後は一人ずつの演技について、まず本人が評価し、続いて他の人が意見や感想を言う。手を上げて指名されてから発言する。
- ④ 本時の個人目標をたてる。最後まではっきり言う。

以上のように学習を進めた。しかし②のストップさせたビデオをみる場合はさわきがちになるため、ストップさせずに進めることにした。その中で次のような変化がみられらした。

- ① ビデオを静かに見るようになった。
- ② 手を上げて指名されてから発言するようになった。
- ③ 言尾があいまいな時も、教師の口まねで、最後まで話そうとするようになった。

5 考察と反省

以上のような取り組みの中でY・I児の話す時と聞く時の態度はかなり改善され、話し合いに集中して参加し、内容の理解が深まっているように考える。また、学習の途中での勝手な行動も減り、素速く行動を移すようになってきた。さらに最後まで話そうとする態度が身につきだし、以前と比較すると言語もはっきりしてきたように思われる。これらの態度は、他の日常生活場面でもみられるようになってきた。しかし、劇学習の時の机、イスを置く場所がわからないということもあり、内容を完全に理解できているわけではない。そのような時はもう一度自分の口で言わせてみるなどの指導が今後共必要と考える。また、Y・I児だけでなく他の生徒にも指導を徹底させ、そういう雰囲気を作ることがY・I児を指導する上でも大切だと感じた。この2点を今後さらに徹底させることにより、集中力が育ち、意欲的に活動の持続する子に育っていくのではなかろうかと考えている。